

2021 年 12 月 26 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒60 番

『主イエス・キリストの』

聖書⇒詩編 104:24~25、31~35 節（SK 兄）

『主よ、御業はいかにおびただしいことか。あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。地はお造りになったものに満ちている。同じように、海も大きく豊かで／その中を動きまわる大小の生き物は数知れない。

どうか、主の栄光がとこしえに続くように。主が御自分の業を喜び祝われるように。主が地を見渡されれば地は震え／山に触れられれば山は煙を上げる。命ある限り、わたしは主に向かって歌い／長らえる限り、わたしの神にほめ歌をうたおう。どうか、わたしの歌が御心にかなうように。わたしは主によって喜び祝う。どうか、罪ある者がこの地からすべてうせ／主に逆らう者がもはや跡を絶つように。わたしの魂よ、主をたたえよ。

ハレルヤ。』

讃美歌⇒107 番

『まぶねのかたえに』

聖書⇒詩編 116:1~11、15~19 節（ES 姉）

『わたしは主を愛する。主は嘆き祈る声を聞き

わたしに耳を傾けてくださる。生涯、わたしは主を呼ぼう。

死の綱がわたしにからみつき／陰府の脅威にさらされ／苦しみと嘆きを前にして

主の御名をわたしは呼ぶ。「どうか主よ、わたしの魂をお救いください。」

主は憐れみ深く、正義を行われる。わたしたちの神は情け深い。

哀れな人を守ってくださる主は／弱り果てたわたしを救ってくださる。

わたしの魂よ、再び安らうがよい／主はお前に報いてくださる。

あなたはわたしの魂を死から／わたしの目を涙から／わたしの足を突き落とそうとする者から／助け出して
くださった。

命あるものの地にある限り／わたしは主の御前に歩み続けよう。

わたしは信じる／「激しい苦しみに襲われている」と言うときも

不安がつのり、人は必ず欺く、と思うときも。

主の慈しみに生きる人の死は主の目に価高い。

どうか主よ、わたしの縄目を解いてください。わたしはあなたの僕。わたしはあなたの僕、母もあなたに仕え

る者。

あなたに感謝のいけにえをささげよう／主の御名を呼び
主に満願の献げ物をささげよう／主の民すべての見守る前で
主の家の庭で、エルサレムのただ中で。ハレルヤ。』

讃美歌⇒158 番（OH 兄）

『あめにはみつかい』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22:19～20 節（KH 兄）

『それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

礼拝讃美歌⇒148 番（旧 94 番）

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒マルコによる福音書 11:22～24:節（KH 兄）

『そこで、イエスは言われた。「神を信じなさい。はっきり言うておく。だれでもこの山に向かい、『立ち上がって、海に飛び込め』と言い、少しも疑わず、自分の言うとおりになると信じるならば、そのとおりになる。だから、言うておく。祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 11:41～45a:節

『人々が石を取りのけると、イエスは天を仰いで言われた。「父よ、わたしの願いを聞き入れてくださって感謝します。わたしの願いをいつも聞いてくださることを、わたしは知っています。しかし、わたしがこう言うのは、周りにいる群衆のためです。あなたがわたしをお遣わしになったことを、彼らに信じさせるためです。」こう言うてから、「ラザロ、出て来なさい」と大声で叫ばれた。すると、死んでいた人が、手と足を布で巻かれたまま出て来た。顔は覆いで包まれていた。』

聖書⇒マルコによる福音書 9:21～24:節

『イエスは父親に、「このようになったのは、いつごろからか」とお尋ねになった。父親は言った。「幼い時からです。霊は息子を殺そうとして、もう何度も火の中や水の中に投げ込みました。おできになるなら、わたしどもを憐れんでお助けください。」イエスは言われた。『『できれば』と言うか。信じる者には何でもできる。』

その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8:28 節 (ES 姉)

『神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。』

聖書⇒エズラ記 1:1~2:節

『ペルシアの王キュロスの第一年のことである。主はかつてエレミヤの口によって約束されたことを成就するため、ペルシアの王キュロスの心を動かされた。キュロスは文書にも記して、国中に次のような布告を行き渡らせた。「ペルシアの王キュロスはこう言う。天にいます神、主は、地上のすべての国をわたしに賜った。この主がユダのエルサレムに御自分の神殿を建ててをわたしに命じられた。』

礼拝讃美歌⇒269 番

『浮世の嘆きも』

《建徳要旨》

①

②